

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立上野高等学校 定時制課程)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が学びがいを実感する学校 ・ 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 ・ 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶を大切にする生徒 ・ 気づきを大切にする生徒 ・ 命を大切にする生徒
育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	
【グラデュエーション・ポリシー】	
ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 ・ 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 確かな学力の育成と進路希望を実現し、居場所のある安心安全な学校</p> <p><保護者> 一人ひとりを大切にし、学力や社会性が身につく学校</p> <p><中学校> 一人ひとりの生徒の個性を生かし伸ばしていく学校</p> <p><地域・企業・事業主> 基礎学力、社会性、協調性、コミュニケーション力など調和のとれた生徒を育成する学校</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> 一人ひとりを大切にした教育と進路実現</p> <p><事業主> 社会人としての教養やマナーの定着</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 教育活動への理解と協力</p> <p><中学校> 支援の必要な生徒への情報共有や連携した指導</p> <p><地域の関係機関> 生徒の実態理解と支援</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業満足度は高く、生徒が学習に向かう環境は整っていると感じた。 ・ 人とのつながりにおける困り感を感じている生徒がいる可能性がある。アンケートなどを実施し、生徒の思いを共有して、生徒ともに対策を検討していくことも効果的であると思う。 ・ 多様な生活背景をもつ生徒が、互いを尊重し楽しい学校生活を送れるようにしてほしい。 ・ 次の一步を踏み出せない生徒に対しても、個々のペースで対応していただいている。 ・ 多様な生徒に対応している教職員のメンタル面での負担も大きいと感じる。教職員のメンタルケアにも十分配慮した学校運営を行うことが大切である。 	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働的な学びを通して、課題を解決していく力の育成が必要である。 ・ 4年間を見通したキャリア教育を計画するとともに、社会で活躍するために必要な力の育成が必要である。 ・ 増加傾向にある外国籍生徒の指導の充実が課題である。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9割以上の保護者が学校通信や保健便りを通して学校の様子がわかると回答しており、情報発信として効果的であった。今後は、ホームページの内容も充実させ、多方面からの情報発信をしていく必要がある。 ・ 個別の支援が必要な生徒、外国籍生徒など多様な生徒に対応するため、保護者、中学校、地域機関との連携は不可欠である。今後も連携を密にして教育活動を進めていく必要がある。 ・ 特別支援教育、ICTの効果的な活用に関する校内研修を実施した。日々変化する生徒の状況を的確に把握し、研修を設定するとともに、校外研修も積極的に活用し、教育活動に生かしていくことが必要である。 ・ 日頃からの情報共有を密にすることで、生徒への迅速な対応につながるとともに、会議時間の短縮等教職員の働き方の見直しにもつながった。様々な課題を的確に解決するため、今後も情報共有と課題意識の共有に継続して取り組みことが必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立心を持った生徒を育む教育活動の推進 ・ 生徒一人ひとりの進路実現を目指した取組の推進 ・ 主体的・協働的な態度、他者と共生する力の向上に向けた取組の推進
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者・地域との連携を密にし、満足と信頼の確保に向けた取組の推進 ・ 教育活動・学校運営を継続的に改善していく活気ある明るい組織風土の醸成に向けた取組の推進 ・ 過重労働緩和・総勤務時間削減に向けた取組の推進

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標・目的意識をもって、本校で学び成長する意欲がある生徒
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒の学びの充実	【活動指標】 ○非常勤講師を含めたすべての教員が、ICTの活用やアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うとともに、互いに協力し問題解決力を高める学習指導を実施 ○人権学習会を2回以上実施する ○登校指導を定期的に行う	各科目で実施 人権学習会 3回実施 登校指導 毎日実施	◎ ※
	【成果指標】 ○生徒アンケートで「授業の説明は丁寧で分かりやすい」 95% ○生徒アンケートで「困難だと思うことでも、前向きに考えて挑戦している」 95% ○生徒アンケートで「授業で学習した内容は、今後役に立つと思う」 95% ○生徒アンケートで「総合的な探究の時間」における「取組満足度」 95% ○生徒アンケートで人権教育満足度 95% ○日本語習得支援に係る授業への参加者5名以上 ○生徒アンケートで「働くこと」への理解度 80%	98% 91% 94% 100% 91% 14名 91%	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な授業や、総合的な探究の時間において、クロムブックなど ICT を活用した授業ができた。今後はさらに活用できる機会を増やしていきたい。 ・生徒アンケート「授業の説明は丁寧で分かりやすい」が98%と目標を達成できている。 ・外国籍生徒が増加しており、今年度は全体の半数近くいる。日本語指導を充実がさらに求められる。 ・4年生の就職指導は、夏季休業中に全職員で面接指導を行った。就職実現コーディネーターとの連携に加え、今年度から就職を支援する企業とも連携した。このような連携を継続していく必要がある。 ・人権学習会を定期的実施。本年度はSNSをはじめとするインターネット上での人権や、マイクロアクションについて身近な会話を考えたり、多文化共生について学習したりした。これからも継続的な取組が必要である。 			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
保護者・地域との連携	【活動指標】 ○学校通信「道標(みちしるべ)」、「ほけんだより」を発行する。 ○保護者対象の授業公開を年1回以上実施する ○中学校との情報共有を定期的に行う	毎月発行した 年2回実施 各学期2回実施	※ ※ ※
	【成果指標】 ○保護者アンケートで「学校通信により、学校の様子がわかる」と回答した割合 100%	よくわかる 76% わかる 24% 合計 100%	
教職員の働きがいの向上	【活動指標】 ○毎週金曜日を定時退校日とし、設定した日の定時に退校できた職員の割合 100%	100%	
	○週1日以上以上の休養日を設定できた部活動の割合 100%	100%	
	○60分以内に終了した会議の割合 90%以上	100%	
	【成果指標】 ○一人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下の職員の割合 100%	100%	
	○一人当たりの年間休暇取得日数を15日以上	24.5日	
	○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人 ○年360時間を超える時間外労働者の人数0人	0人 0人	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの保護者が、学校からの通信やほけんだよりを通して、学校の様子が分かると回答している。 ・多様な生徒に対応するため、保護者や中学校、地域機関との連携はさらに密にしていける必要がある。 ・日頃から、情報共有を行っていることで、職員会議等の会議時間の短縮になっている。また、過重労働や休暇取得についても、目標を達成できているが、過重労働縮減はしっかり取り組んでいく必要がある。 			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	高卒求人を使って就職する生徒の進路実現を、引き続きしっかりとやっていただきたい。また、4年生になってからでなく、低学年のうちから、キャリア教育の充実を図ってほしい。
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	ICTの活用をより一層充実させ、生徒のコミュニケーション能力の向上に取り組む。自己の進路をしっかりと考えられるよう、キャリア教育の充実を図っていく。外国籍生徒への日本語指導をより充実させていく。
学校運営についての改善策	業務の効率化を図り、総勤務時間の縮減に向けた取組を進める。定時制の活動を、保護者や地域に発信していき、連携を推進していく。